

北海道ぎょれん広報

なみまるくん

1
2025

No.435



「うみ・なかまコミュニケーション」



特集

海・ひと・夢 スペシャル 新春 会長インタビュー
ぎょれん常勤役員の新春メッセージ

海ひと夢スペシャル

新春会長インタビュー

その浜に合う漁業の形を模索し、
明るい将来への足掛かりとなる一年に



阿部国雄会長

明けましておめでとうございます。
新春にあたり、阿部会長に
昨年を振り返り、新年に向けた
お話を伺いました。

[うみ・なかま コミュニケーション]

なみまるくん

北海道ぎょれん広報誌
Hokkaido Gyoren Magazine
January 2025 No.435

1
2025

- 01 海・ひと・夢 スペシャル
新春 会長インタビュー
- 04 新春企画 ゑれん常勤役員
新春メッセージ
- 06 特集
ぎょれん職員が選ぶ ゑれん5大ニュース
- 08 なみまるインフォメーション
- 10 浜の家族物語
佐呂間漁協／岩本 祐喜さん ご家族
- 11 頭すっきり!! ブレイクタイム
- 12 大漁祈願!
浜のほっとニュース
- 13 みなさんのお便りでつくるページ
なみまる おたより箱



とつぷし
本道最大の湖・サロマ湖に面する富武士漁港。冬の時期は湖が結氷してしまうため、その前に船を上架し、春漁に向けメンテナンスを行うのが慣例となっています。

表紙の写真
佐呂間漁協／岩本 祐喜さんご家族です

2024年を振り返って

昨年の北海道漁業を振り返ると、「良かった」と思えるのはサンマだけだった印象です。しばらく厳しい状況が続いていた中で、昨年の回復は漁業者の方々の操業意欲を高めることにつながったと思います。

主要魚種に目を向けると、秋鮭は全道的に落ち込み、5万トンを下回りました。一生懸命稚魚の放流を行っても帰ってこない状況が続いており、研究者の方からは「稚魚の段階で餌にかけられている」とか「高水温により途中でへい死している」といった話が何年も聞かれますが、100%確実という原因が示されず、話はそこから進みません。また、以前と違い、後期群はほとんど期待できず、私の地元・渡島で言えば今はほぼ皆無です。これまで獲れなかったアワビやカツオまでが獲れるなど、水温が高くなって生息域が北上しているように見えます。こうした状況に代替の魚種が良い形で入ってくれ、転換してくれると助かりますが、そううまくいきません。様々な魚の生存域をどのように考えていくか、大変難しいところです。

ホタテについては、中国の輸入再開の見通しが立たない中、昨年は米国沿岸域で不漁だったことや為替の影響もあり、引き合いが強くなっています。しかし、輸出を一国に頼るのは問題があるということが浮き彫りになりましたので、ぎよれんとしてはできるだけ日本国内での加工・生産を推進しつつ、国内需要を伸ばすことが一番重要

持続可能な漁業のために

持続可能な漁業のためにTAC管理魚種の拡大などが行われていますが、多くの魚種で低水準の水揚げが続いており、漁業者にとっては一年一年が勝負の年として、さらにその先のことで考えられなくなってきました。そうした中で、今年4月からブリのステップアップ管理が始まっています。ブリは秋鮭と同じ時期に定置網で混獲されるものも多く、ブリだけを網から逃がすといったことは困難です。こうした実



と捉えています。2日に一度や3日に一度といった頻度で、ホタテが家庭の食卓に上るよう、地元の方々はもちろんですが、普段あまりホタテを食べないような地域の方々にも食べてもらえるよう、料理研究家の方にご助力をいただきながら、食べ方の範囲を広げる取組を行っていききたいと思っています。

それと、昨年は複数海域にわたってラーパーが付着せず、稚貝の生産が全道的に危ぶまれる事態となりました。12月に道と道議会へ採苗不振の原因究明や海洋環境の変化などを踏まえた採苗技術の高度化などを要請したところですが、この状況が続くかもしれないと思うと、本当に待たなしの状態です。研究機関には早急に調査を行っていただき、結果に沿って対策を取ってきたいと考えています。

そして昆布についても昨年は高水温の影響で着藻自体の根が弱く、ちよっとした時化で抜けてしまったこともあり、統計開始以来最低の生産量にとどまりました。価格については数量が少ないだし系は引き合いが強くなり、前年より30%近く上昇しましたが、加工品向けはそこまで変わらず、減産分を価格で補うことはできませんでした。昆布全体の安定生産には、天然資源の回復が不可欠で、食害の抑制のために漁業者自ら行うの移植や岩盤清掃を行うとともに、各組合では鉄鋼スラグを入れるなど、天然昆布が繁茂できるような取組を各地で行っています。その他、私が代表を務める北海道昆布振興協会では、今後を踏まえて種の保存にも取り組み始めたところですし、種類の違う天然同士の藻場の浸食といった課題

情も踏まえ、国には秋鮭の漁獲に影響を与えない管理手法の導入を求めるとともに、道北系群のホッケについても、これまで同様「北海道スタイル」を基本とした管理を水産庁へ訴え、理解を得たいと考えています。

また、海洋環境保全のために推進している脱・抑プラスチックの取組では、これまでのナイロン製刺網、魚函のリサイクルに続き、本年は籠とフロートに取り掛かる予定です。特にフロートは技術的には難しいですが、全体での使用量が多く、保管にも場所を取ることから、リサイクルできれば大きな前進につながります。さらには、カーボンニュートラルの実現へ期待が高まるブルーカーボンについても研究や普及を進めていきますが、現在の制度ではクレジットを購入する側には、企業イメージの向上くらいしかメリットが見受けられません。今後の推進のためにも国にはさらなる仕組み作りをお願いしたいところです。本年6月に小樽での開催を予定している「北海道豊かな海づくり大会」は、多くの方に海に対して興味を持っていただける貴重な機会です。漁業者がこうしたリサイクルや資源管理、放流事業や植樹、カーボンニュートラルの取組なども行っていることを知ってもらえる場にしていききたいと考えています。

将来につなぐ

北海道漁業の構築へ

昨年の組合長会議では「将来につなぐ北

も見られ、そのための対策なども検討を進めます。

国の政策やアルプス処理水放出に伴う東電の対応について

昨年、水産庁は漁業共済・積立ぶらすの修正再編案として、クロマグロ漁業者への下げ止め特例措置の廃止を打ち出しました。当初は3年かけて段階的に廃止していく案が示されましたが、それではあまりにも漁業者が物事を考える時間が足りないと、慎重な対応を求めるよう要請を行い、その結果、5年間に期間を延長してもらいました。特にマグロを混獲する秋鮭定置網漁を生業とする漁業者には後がありま

せんので、喫緊の課題として対応していかなければ、次の免許の切り替え時にはどうなるか分かりません。ぎよれんとしては、この5年の間に知恵を絞って、各浜にあった対応策を考えていきますが、様々な案が出るとは思いますので、しっかりと国や道でもサポートしていただけるとありがたいです。

また、アルプス処理水の海洋放出に関連して、中国・香港への輸出依存度の高いナマコは、一昨年に比べて昨年はかなり価格が下がってしまいました。こちらも東京電力の補償対象となっており、最初に補償されたのが日本海側のナマコです。補償請求への基本スキームを構築したこと、ほぼタイムスケジュール通りに支払いが行われており、東電はこちらに対し、真摯に向き合ってくれていると感じています。

北海道漁業の構築」という大きなテーマを決議し、様々な取組を行ってきました。その中で中心となるのは漁業を支える「人」であり、その「人」を守るためには、安定した生産や収入が必要です。特に今の若い方たちは、少し良い水準での安定を求めています。そのため、これからは漁船漁業で魚を追い求めるだけでなく、栽培漁業や養殖なども含め、最終的にはどのくらいの生産量とするのか、そのためにはどのくらいのスパンで何年後にはこうなっている、といったことを明確化し、今年、来年をかけて打ち出していかなければなりません。そして、その手法は様々なあるため、各浜に合った答えを見つけることが未来に繋がる漁業になるかと思っています。

加えて行政を含めた経営安定対策も重要です。しっかりと漁獲できる魚種がある程度あり、数量も獲れて、そのうえで万が一に価格が大きく変動しても行政からの支援がある。そうした支援態勢を整えることが後継者問題解決の一つとなると考えています。

最後になりますが、私たちは一人一人の漁業者がこれからの漁業に対し、さらなる意欲を持てるような施策を打っていききたいと思っています。何か要望があれば、どんな小さなことでもぎよれん職員に相談してください。魅力ある漁業のために、漁業者の皆さんが命をかけて沖に出ている以上、その分の見返りも必要です。そうした部分は私たちが一生懸命頑張る、支えられるよう取り組んで参りますので、ぜひ本年も良い魚を獲っていただき、良い製品作りにご協力いただきたいと思います。



常務
山口 重幸

あけましておめでとうございます。

アルプス処理水の放水による中国の日本産水産物全面禁輸は解禁されず、年初からほたて貝の流通に甚大な影響が懸念されていましたが、2022年3月から始まった円安傾向はとどまることを知らず米国産ほたての大減産も相まって、玉冷の価格は順調に推移しました。噴火湾ではマヒ性貝毒の高毒化が昨年に引き続き発生し、一時、原貝価格が暴落する事態が発生し、ボイル加工への転換を余儀なくされましたが、製品は順調に消化されました。

本年は全道的な稚貝の減産が見込まれており、青森では稚貝の生産は順調だったものの夏場の高水温でそのほとんどが斃死したとの情報があり、海洋環境の急激な温暖化が今後のほたて貝の生産に予測のつかない影響を与えていることは確実なようです。

引き続き、様々な問題が山積していますが、本年も、本道ほたての安定的な消流も目指し、的確な情報収集と国内外の消流動向を見極め、臨機応変に対応していく所存です。



常務
中村 尚広

あけましておめでとうございます。

昨年の昆布の生産は、統計以来最低の9,000 tを割り込む見込みです。

価格は高値推移するも、金額面では厳しい年となりました。

藻場整備や環境に適した育種の保存等、行政や専門家と連携し生産振興に力点を置き、生産の安定・維持に努め、価格の底上げを図って参ります。

また、燃油や漁業資材は様々な要因から高騰が続いており、漁業コストの負担も大きくなっております。的確な情報収集に努め、系統購買を通じ少しでも安価で良質な製品供給に努めます。

今年もよろしくお願いいたします。



常務
瀧波 憲二

あけましておめでとうございます。

「誰かのために生きてこそ人生には価値がある～A.アインシュタイン」

戦争が止まず混沌とする世の中、今だからこそ「協同」という精神が求められています。

北海道の漁業においても、激変する海洋環境下、資源の減少、アルプス処理水による影響、後継者不足、漁協経営の安定化等、課題は山積していますが、浜のため、仲間のために、協同組合の精神を発信し、この難局に立ち向かっていきたいと思えます。

本年もよろしくお願いいたします。



常任監事
村上 和美

あけましておめでとうございます。

昨年は、「昆布生産高が統計開始以来」、「秋鮭水揚げ数量が平成以降」とともに最小を記録し、帆立の稚貝種苗採捕も不振に陥るなど、北海道を代表する魚種にとって、数量的には良い年とは言えなかった1年だったと感じています。

令和7年は「乙巳（きのとみ）」の干支にあたり、「これまでの努力や準備が実を結び始める時期」を示唆するとされており、養殖技術の蓄積や放流事業などの成果が実を結び豊漁となることに加え海難事故がないことを祈念いたします。



ぎょれん常勤役員の 新春メッセージ

質問項目

- ◎昨年を振り返って
- ◎新年にあたっての抱負、メッセージ



副会長
菊池 元宏

自助・共助・公助

明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのことと、お喜び申し上げます。

昨年は、何とんでも本道漁業の基幹魚種が、その基盤が大きく揺らぎ、自助・共助だけでは、抗うことのできない、大きな問題が襲い掛かってきた年でした。

やはり科学の目を持って、問題の究明と、対策を講じる必要がある。対策の実施には、自助・共助・公助が三位一体となって取り組まねばならない、そのような思いを強くしております。

本年が海難事故なく大漁であることを、ご祈念し新年のご挨拶といたします。

本年も、宜しくお願いいたします。



専務
安田 昌樹

新年おめでとうございます。

令和になり丸5年が経過し、新年を迎えます。この5年のテレビ、新聞等の報道は「コロナ」「戦争や紛争」そして「100年に一度の異常気象と災害」でした。たった5年ですが有史以来、激動の5年間だったと思います。そして我々の業務も激動の5年間だったかと思っています。これからの5年間も平穏ではないと思いますが、しっかりと対策していく必要があります。

まずは「海洋保全」です。もはや地球温暖化を超え地球沸騰化時代を迎え、環境対策は待ったなしの状態です。今、できることは僅かでも、すぐに効果が現れなくても、漁業関係者の総意として環境対策を進めていく必要があります。豊かな海無くして漁業は成り立ちません。そういう想いを忘れずにこの1年間、業務に取り組んで参ります。



常務
伊藤 貴彦

新年あけましておめでとうございます

編集部からは指示されておきませんが、新しい年を漢字一文字で例えるなら「備」でしょう。

昨年起きた全域的なほたて稚貝の採苗不振、道東地区昆布の不作、深刻な問題です。

温度・海流といった物理的要因、海水成分などの化学的要因、そして捕食・競合の生物学的要因が織りなす結果が“資源状態”であり“漁場形成”。原因究明も容易には進まず、問題が起こるたびに種々論じられ、特定に至らぬうちに回復して関心が薄れるという展開。基礎データ蓄積の重要性を感じます。

農業に比べ遥かに難解な環境の漁業において、所得補填等の制度的な備えもさることながら、産物自体を環境に合わせる技術の模索、という方向の準備も怠れないと考えます。

4位

東京電力とのALPS処理水に係る損害賠償請求実現。

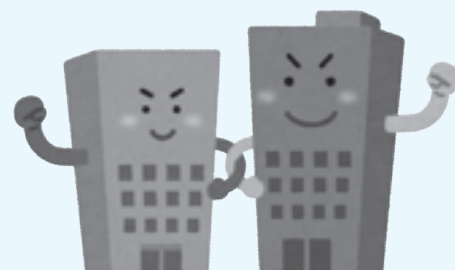
ほたて、なまこ、秋鮭等の損害賠償が実現！関係漁業者からも安堵の声！



5位

「株ぎよれん道北食品」と「株カネ二台丸谷」が12月1日付で合併、新生「株ぎよれん道北食品」として事業開始。

北海道漁連グループの一員として、皆様からのご期待に応えられますよう一層の努力をしてまいります。



惜しくもベスト5から外れた、⑥位以下はこちら

6位

全道的なラーバの採苗不振。来期の稚貝生産が危惧される。

7位

HELLO KITTY コラボ販促。世界の“HELLO KITTY”とのコラボキャンペーンを展開。量販店販促やSNS広告展開のほか、各地イベントに“HELLO KITTY”が出演。

8位

第50回衆議院議員総選挙。10月15日公示、10月27日投開票。北海道内議席（全20議席）は自由民主党6、公明党1、立憲民主党12、国民民主党1となる。

9位

北のさかなかま（ユニット名） ステージデビュー。「ホタテリオ」、「シャッケ船長」、「こんぶらこ」の3人がイラストの世界を飛び出し、現実へ。テーマソングとダンスも完成し、道内食育教室や全国各地の催事など、道産水産物PRのために奮闘中。

10位

秋鮭フィッシュブロック 新商品展開。エスコンフィールド北海道にあるFIGHTERS DINING ROSTERにて、「しゃけ勝（カツ）ドッグ」が8月より販売開始。

今年は良いニュースがたくさんあることを期待しています。

ぎよれん職員が選ぶぎよれん

5大

ニュース

ぎよれんでは毎年年末に、「今年のぎよれん5大ニュース」を職員の投票で決めています。地震や豪雨被害など自然災害も多い年でしたが、パリ五輪で日本選手団が活躍し、皆が力をもらったと思います。2024年はどのような年だったのか、ぎよれん職員の視点からご紹介します。

1位

秋鮭水揚げ4万トン台に留まる。数量43,631トン、昨対82%(11月末実績)

残念ながら内水試の予想通りの結果となりました。



2位

全道昆布生産、統計開始以来最低の8,500トンの見込み。

昨年の猛暑の影響から、太平洋沿岸中心に減産となり価格は大幅に上昇。



3位

さんま水揚げ23,903トン、昨対161%(11月末実績)

令和元年ぶりに2万トンを超える水揚げに浜は活気づきました。



ほたて貝生産の根幹となる稚貝の安定生産へ道議会・道水産林務部へ要請 採苗不振の原因究明などを強く訴えました

北海道ほたて漁業振興協会（高桑会長・常呂漁協／事務局：ぎょれん販売第一部）とぎょれんは、今年度のほたて貝の採苗不振を受け、12月5日（木）、道議会・道水産林務部へ合同で要請を実施しました。

本道で生産されるほたては漁業生産高の約3分の1を占め、本道漁業や水産加工業など関係する多くの産業にとって重要な基幹魚種となっていますが、今年度は複数海域にわたって、採苗が不振となっており、ほたて貝の生育過程において極めて重要な稚貝の生産が全道的に危ぶまれる事態となっています。この度の要請は、稚貝を安定的に生産していくために道総研水産試験場や水産技術普及指導所などの調査研究体制の充実を図りながら、ほたて稚貝の採苗不振の原因究明、海洋環境の変化などを踏まえた採苗技術の高度化、ラーバの出現状況などの調査と情報提供の充実強化を求めたものです。この要請に対し、道議会や道水産林務部からは、各地域の実情を調査しながらしっかりとした研究を行うと共に、対策を練っていく旨の回答が示されました。



要請団を代表して高桑会長（常呂漁協）より要請書を手交しました

梨田氏（元・日ハム監督）が自らの経験を基に指導者の心得を講演 令和6年度 北海道漁協専務参事会研修会が開催されました

11月21日（木）、札幌の第二水産ビル8階会議室で、「令和6年度 北海道漁協専務参事会研修会」が開催され、全道の漁協専務参事をはじめ、道水産林務部や系統関係者約100名が出席しました。この研修会では本道の漁協専務参事が研修を通じて、経営管理者としての知識の習得と資質の向上を図り、本道漁業の振興と漁協経営の安定強化に資することを目的に毎年開催されているものです。

開会にあたり富田会長（沙留漁協）からのあいさつに続いてプロ野球解説者・日刊スポーツ野球評論家の梨田昌孝氏を講師として「自己と組織の育成法～梨田流コミュニケーション術」と題した講演が行われました。参加者たちは日本ハムファイターズの元監督としてチームを優勝に導いた指導者としての経験などの話から様々なことを学び、漁協経営を担う専務参事にとって、課題解決の一助となる貴重な時間となったようでした。



全道から多くの漁協専務参事らが参加し、漁協経営管理者としての研さんを積みました



講師を務めた梨田氏

昆布をテーマにした料理体験&京料理食事体験 京都で「北海道昆布バスツアー」を実施しました

北海道昆布漁業振興協会（阿部会長／事務局：ぎょれん販売企画部）は、12月1日（日）、「全国小学生 昆布ポスターコンクール」の副賞として招待された小学生とその保護者15組30名を対象に京都市内を回る昆布バスツアーを実施しました。

この度のバスツアーでは、同コンクールの優秀作品が車内に展示された「昆布ラッピングバス」（運行：京都バス株）を活用し、クッキングスクールでの親子料理教室、料理旅館での京料理食事体験の2カ所を巡りました。京都や関西をはじめ、首都圏や札幌など全国各地から集まった参加者は、バスの車内でのクイズや道産昆布を使用した調理体験、本格京料理店での食事体験を通じて、改めて日本のだし文化を支える道産昆布の魅力やそのおいしさを学んでいただけたようでした。



親子料理教室の前にはぎょれん職員による昆布講座も行われました

令和6年度北海道産業貢献賞表彰式

水産業関係功労者として17名の方が表彰されました

12月17日（火）、ホテル札幌ガーデンパレスで道水産林務部関係の令和6年度北海道産業貢献賞表彰式が開催され、水産業関係からは水産団体等功労者として17名の方が表彰されました。

この度の表彰では、組合等の役員として事業運営の向上に貢献し、その功績が極めて顕著な職員に贈られる「優良水産業協同組合等功労者」に11名、長年にわたり水産業事業に尽力または永年職務に精進し、他の漁業者の模範となる個人に贈られる「水産業等功労者」に2名、長年にわたり海区漁業調整委員会、内水面漁場管理委員会等の委員として在職し、その功績が顕著な方に贈られる「海区漁業調整委員等功労者」に4名が選ばれ、当日出席された表彰者には三橋副知事より表彰状と記念品が授与されました。今年度の表彰者は次の通りです（敬称略）。

「優良水産業協同組合等功労者」：伊藤保夫（小樽機船漁協組合長）、室村吉信（室蘭漁協組合長）、中村正俊（南かやべ漁協前専務）、若山唯敏（鹿部漁協組合長）、山下勉（森漁協組合長）、忠鉢武（増毛漁協前参与）、木幡武志（宗谷漁協前専務）、山崎知春（常呂漁協参事）、安田将治（雄武漁協専務）、倉館建一（厚岸漁協前副組合長）、本間正道（厚岸漁協元監事）

「水産業等功労者」：松村勝廣（函館地区マリンバンク推進委員会会長）、杉村政由（オホーツク管内漁業士会前副会長）

「海区漁業調整委員等功労者」：須永忠幸（宗谷海区漁業調整委員会会長）、葛西英裕（宗谷海区漁業調整委員会委員）、吉田幹也（宗谷海区漁業調整委員会委員）、石塚治（網走海区漁業調整委員会委員）



表彰式に出席された受賞者の皆さん

年末年始においしい道産水産物を 今年も全道の児童福祉関連施設などへ 道産水産物を寄贈

ぎょれんでは児童に対する魚食普及と社会貢献の観点から、札幌市内の児童福祉関連施設のほか、希望のあった全道の児童福祉施設、母子生活支援施設など、計33施設へ秋鮭、ほたて、昆布製品などの道産水産物を寄贈させていただきました。

この取組は札幌市内の施設へは平成5年から、それ以外の施設へは令和4年から実施を続けているもので、施設に入所している児童やその関係者の方々に年末年始に道産水産物を味わっていただきたいと、毎年クリスマスの時期に行っています。

今回の寄贈に係り、12月16日（月）、北海道、札幌市それぞれへの贈呈式が執り行われ、ぎょれんの安田専務から北海道保健福祉部の野澤子ども応援社会推進監、札幌市子ども未来局の佐藤局長へ目録が手渡されると、この取組に対して感謝状をいただきました。



この度の水産物寄贈に対して、北海道（上）と札幌市（下）からそれぞれ感謝状をいただきました

シークワードクイズ

1月のテーマ 「県庁所在地」

コ	ギ	ト	ミ	マ	ツ	エ
フ	ク	シ	マ	ヤ	ツ	マ
タ	マ	シ	ゴ	カ	ザ	タ
イ	カ	ナ	ザ	ワ	ウ	キ
オ	オ	マ	シ	ク	ト	ア
オ	リ	ト	ツ	ト	ラ	ハ
ツ	モ	フ	キ	サ	ガ	ナ

どれにも使用しなかった文字を
うまく並べてください。

解答 となります。

くわしい応募方法は、13ページをご覧ください。
抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

カ	リ	ゴ	ラ	モ	ス	タ
ブ	ヨ	ウ	ナ	メ	ハ	ボ
イ	サ	ギ	サ	タ	ラ	ノ
ロ	グ	ナ	ハ	ビ	ジ	ヒ
シ	グ	ウ	ウ	ク	イ	
ノ	ロ	マ	コ	ア	カ	レ
コ	ミ	ス	ラ	カ	ジ	カ

12月号の解答と当選者

カズノコ

(泊村)秋山 祐子さん
(浦河町)K Aさん
(厚岸町)S U eさん
(厚岸町)平原 直也さん
(札幌市)大久保 美有さん

1月は「県庁所在地」がテーマです。日本全国、1都1道2府43県でこれまでどれだけ訪れたでしょうか？

図の中で、たて、よこ、ななめの一直線に下のリストのキーワードが読めるようになっています。

どこにあてはまるか探してください。すべて探し終わったら、どれにも使用しなかった文字をうまく並べかえてください。

リスト

- ☐ アキタ(秋田県)
- ☐ トクシマ(徳島県)
- ☐ マツエ(島根県)
- ☐ オオイタ(大分県)
- ☐ トツトリ(鳥取県)
- ☐ マツヤマ(愛媛県)
- ☐ オオツ(滋賀県)
- ☐ ナガサキ(長崎県)
- ☐ ミト(茨城県)
- ☐ カゴシマ(鹿児島県)
- ☐ ナゴヤ(愛知県)
- ☐ ミヤザキ(宮崎県)
- ☐ カナザワ(石川県)
- ☐ ナハ(沖縄県)
- ☐ モリオカ(岩手県)
- ☐ ギフ(岐阜県)
- ☐ ナラ(奈良県)
- ☐ ワカヤマ(和歌山県)
- ☐ タカマツ(香川県)
- ☐ フクシマ(福島県)

〈ヒント〉 戦国時代は甲斐国(かいのくに)の政治的中心地として位置付けられました。

解き方

リストの言葉をマス目の中からタテ、ヨコ、ナナメの一直線に探していきます。文字は逆方向から読んでも、他の言葉と重複して読んでもOK。すべて見つけた後、使われなかった文字をうまく並べかえると答え(魚の名前)になります。

例題

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

リスト

- ☐ アキアジ
- ☐ コマイ
- ☐ プリ
- ☐ サンマ
- ☐ コンプ
- ☐ アサリ

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

〈解答〉サバ

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5か所の異なる点があります。
さあ、見つけてください。
(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは13ページにあります。

表紙に登場いただいたご家族を紹介いたします。

佐呂間漁協 いわもと 岩本さんご家族

今月の 浜の家族物語



【岩本さんご一家】岩本 祐喜さん(37歳)、佑美さん(39歳)、真輝呂くん(12歳)、真稀人くん(9歳)

「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場いただいたご家族を紹介します。今回は、佐呂間漁協の岩本さんご一家です。

仲間の助けがあったからこそ

サロマ湖内でほたて養殖を中心に小定置網や刺網漁にも従事する祐喜さん。お父様の代からの漁師の家系で、上に二人のお兄さんが居ますが、二人とも跡を継がないということで、自然と祐喜さんが継ぐことになったそう。それまで漁師の道を考えてはいませんでしたが、高校を卒業すると他の方の船で手伝いをしながら、家業も行い、見様見真似でがむしゃらに仕事を学びました。

そして、6年ほど前にはお父様から正式に代を譲り受け、親方の立場となりましたが、「ここまでこれたのは周りの仲間の助けがあったからこそ、本当に感謝しかありません。その分、誰かが困っていたら助けてあげられるよう心掛けています。20年漁師をしているとはいえ、上の方たちから見たらまだまだ若造。先輩たちの知恵を借りながら、家族や手伝いに来てくれる方たち、一緒に働く仲間たちが元気に楽しく仕事をできるような環境を作りたい」と言います。

また、現在組合の青年部長と北見地区青年部の副会長も務める立場から「下の世代も一生懸命頑張ってくれているので、彼らが今後困らないように基盤となるものを残していきたい」と語ってくれました。

妻や子どもたちのやりたいことを全力で応援

そんな祐喜さんを支えるのが妻の佑美さん。祐喜さんから見ると同じ高校の1つ先輩で、当時は顔見知りくらいの関係でしたが、15年ほど前に互いの友人同士を通じて釣りに行ったのがきっかけでお付き合いを始め、その年の暮れに結婚。一昨年の12月には、手先の器用な祐喜さんやお父様も協力して、念願のカフェをオープンしました。漁が落ち着いた時を見計らっての不定期営業とのことですが、祐喜さんは佑美さんの夢を応援しつつ、昨年を振り返り「家のことだけでなく、自分が沖仕事で大変なときにも丘回りの作業に気を配ってくれたり、番屋の空気を和ませながら仕事を進めてくれたおかげで本当に助かった」と感謝の言葉を口にします。

二人の息子さんについては、長男の真輝呂くんはおとなし目に見えて、芯が強いタイプだそうで、将来の夢は重機の運転手。次男の真稀人くんはレトロな電車が大好きで、今はプラレールなどにハマっているそう。今のところ二人とも漁師には興味が無いとのことですが、「子どもたちには自分でやりたいことを見つけてもらいたい」と夫婦で声を揃えます。そのうえで「もし、漁師をやりたいと本気で言ってきたら、そのときは応援しますよ」と笑顔で話してくれました。



おひゃんす

第8回 一年の抱負はなあ〜に?



でも…今年も海の幸をいっぱい食べようね!

今年のは秋鮭が、あまり取れないと聞いているので孫にイクラ作って送るからと約束したので困ったと思っています。したら、お蔭で買えましたのでお正月に送る事ができました。
(泊村 秋山祐子さん)

今年の冬は寒いです。厚岸湖が凍るのが早そう。白鳥たちが凍えないか心配になります。年越しは、浜の美味しいものを食べて過す予定です。新しい年は大漁に恵まれますように。
(厚岸町 Sueさん 57歳)



プレミストドームで行われた「コープの食育たいせつフェスティバル」に参加しました。ぎよれんのブースでホタテリオくんもホタテについて教えてもらい6才の娘も興味津々で楽しそうでした。改めて食育の大事さを実感させていただきました。
(札幌市 上田唯さん 34歳)

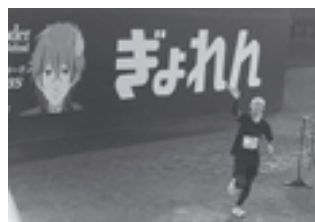
あれ?!もう一年あつとゆうまだね。はいね。気温も暑くて漁師にとつてかなりの大打撃のしだった。ホタテ成長してほしいなあ…
(八雲町 Y.D.Kさん)

魚の無い中、イブシの仕込みも終り、お正月に食べるの待つだけです。
(浦河町 K.Aさん 60歳)

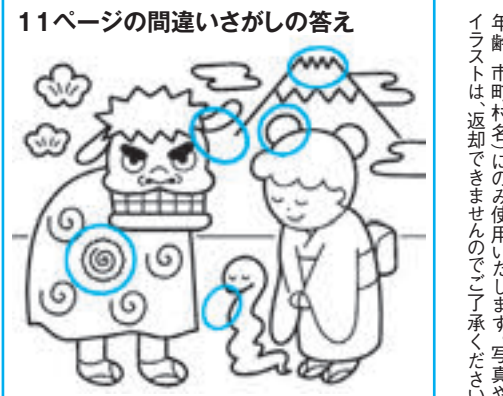
今年は家族も一人増えてとっても賑やかに過ごせました。最高!!
(根室市 すーさん)

無理をしない方なので、比較的健康な方だと思っていました。年齢を重ねるにつれあちらこちらに不都合な真実が…。今年も健康に過ごしたいです。
(藤江)

あけましておめでとうございます
昨年全道各地へ取材に走り回り、あつという間の一年でした。本年も昨年以上に汗をかくて頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。
(古村)



エスコンフィールド北海道にて



※「なみまるおたより箱」には①からご紹介し、ご応募いただいた方の個人情報、図書カード進呈や、写真、イラスト等の掲載(氏名、年齢、市町村名)にのみ使用いたします。写真やイラストは返却できませんのでご了承ください。

皆様からのお便り、写真、イラストをお待ちしています!
次の①③を明記の上、ご応募ください。
抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。
①なみまるおたより箱への投稿(お便り、写真、イラスト等)や、広報なみまるくん1月号への感想・ご意見など(※150字程度まで)
②11ページのシークワードの答え
③住所・氏名・年齢・電話番号
《宛先》
1月23日までにお送りください。
(郵便)
〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎよれん 総務企画部広報担当
(FAX) 011-242-13543
(電子メール) info@gyoren.or.jp

編集部からのお知らせ

news 浜のほつとニュース

大漁祈願!

梶山

寒風吹き付ける冬の日本海ですが、真ほっけや真だらの水揚げが徐々に増えてきました。波風が強くなる冬時期は、時化の合間を縫っての操業となるため漁獲量は多くないものの、貴重な水揚げは高単価につながります。1月に入ると、いよいよ釣り助宗漁の解禁が予定されています。高鮮度維持に取り組み、品質向上に努めています。厳しい気象条件が続きますが、漁業者の皆様の安全を願うとともに、豊漁となることを願っています。

函館

真だらや助宗が本格的な漁期を迎えています。真だらは例年より魚体がやや小ぶりですが、味わい深い身と濃厚な白子が魅力的で、特に「たら鍋」は地元での定番料理として人気を博しています。一方、助宗も良質な卵を持つものが多く、入札会場には活気が満ちています。これから寒さが一段と厳しくなりますが、安全操業を第一に、新年も引き続き豊漁が続くことを祈っています。

日高

冬の代表的な魚種である助宗や真だら、ばばがれいは前年と比較し、大幅な水揚げ減少となっていますが、一方でおおずわいがには11月末累計で昨年の1.8倍の水揚げ数量となり、浜は活気づいています。近年は水揚げが減少傾向にありますが毛がに籠漁も始まり、おおずわいがにだけでなく、毛がにも多く獲れることを期待しています。一日でも多く出漁出来る日が続き、皆様の安全操業と、豊漁が続くことを祈願しています。

釧路

新年、明けましておめでとうございます。たこ、ほっき、毛がになど冬の主要魚種の水揚げが本格化しています。たこは昨年を大きく上回る水揚げとなっています。水揚げが伸び悩む魚種もありますが、これからの巻き返しに期待したいです。今後厳しい寒さが続くと思われますが、引き続きの安全操業を祈念しています。

北見

新年、明けましておめでとうございます。ほたて漁や底建網漁が終漁し、オホーツク海は冬本番を迎えています。一方、サロマ湖内のかき漁は旬の時期を迎え、水揚げが本格化しています。昨季を上回る水揚げになることを期待しています。冷え込みが厳しくなっていますが、本年も各漁の安全操業と大漁を心より祈願しています。

稚内

連日の降雪と厳しい冷え込みが続く、本格的な冬の到来となりました。利尻・礼文地区では真だら刺網漁・なまこ漁の操業が行われています。一方、オホーツク地区では多くの船が上架され、次シーズンに向けて準備が進められています。本年が天候に恵まれ、安全操業で豊漁となることを祈念しています。

小樽

時化模様がが続いていますが、真だらや助宗をはじめ、かれい類、ひらめなどが市場を賑わせています。一方、にしん漁が解禁となるため、着々と準備が進められています。令和6年は令和5年と比べ、数量が154%と増えています。令和7年も漁に恵まれることを期待しています。

室蘭

新年あけましておめでとうございます。主要魚種である助宗の水揚げは昨対80%ほどで推移していますが、卵の成熟が進んで、浜値は昨年より高値を維持しています。また、もう一つの主要魚種である、ほたて漁も本格的に水揚げされています。気温も下がり、時化模様が頻る季節となりました。本年も生産者の皆さんの安全操業と豊漁を祈念しています。

根室

12月2日より野付漁協でほたての水揚げが始まりました。根室、野付、標津漁協を合わせて約200トンのほたてが日々水揚げされ、高値での取引となっていることから、浜は活気に溢れています。時化が続き操業できない日もあるなか、早朝には氷点下まで気温が下がり、非常に厳しい条件下での操業となりますので、皆様の安全操業を祈願しています。

留萌

時化が多く、思うように操業出来ない日が続いていますが、出漁があれば真だらや赤がれいなどが纏まった数量で水揚げされています。ほたて半成貝出荷も一部地区では終盤となり、皿を待って早朝から出荷作業に追われています。今後、より一層寒さが厳しくなりますが、今年も安全操業で皆様が「大漁」の一年となることを心より祈念しています。

自分も仲間も安全第一 笑顔溢れる令和7年に!

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター



ほたて バーガー



頓別漁協

高松 美津枝さん

新年は「浜のおかあさんレシピ」でスタートです。
今回は「ほたてバーガー」をご紹介します。
歯ごたえのあるほたてと貝ひもの食感を楽しめます。
お好み焼きソースでおいしさアップ!

材料 4人分

ほたて(活貝)	4個	★衣	
キャベツ(千切り)	80~100g	薄力粉	適量
玉ねぎ(スライス)	1/4個	卵	1個
パンズ	4個	パン粉	適量
お好み焼きソース	適量	塩・こしょう	適量
		サラダ油	適量

作り方

- ① ほたて貝から殻を外し、ウロを取り、貝柱と貝ひもに分ける。
- ② キャベツを千切り、玉ねぎをスライスし、水に浸す。
- ③ ほたて貝柱は横にスライスして2等分し、しっかり水気を拭きとる。
- ④ 薄力粉と卵をダマがなく、なめらかになるまで混ぜる。
- ⑤ ほたて貝柱の両面に軽く塩・こしょうをかけ、④にくぐらせ、パン粉を手で押さえつけるようにしっかりと付ける。
- ⑥ 熱したサラダ油できつね色になるまで揚げる。
- ⑦ ほたての貝ひもはボイルして1/4の長さに切る。
- ⑧ パンズに、キャベツ⇒フライ(貝柱)⇒お好み焼きソース⇒貝ひも⇒玉ねぎの順に挟んだら出来上がり。